

留学報告書（ソウル大学）

文科一類2年 劉 ケイギョク

はじめに

文科一類2年の劉 ケイギョクです。今年の秋学期にキャンパスアジアというプログラムで韓国のソウル大学校に交換留学しに行って、9月から12月中旬までにソウル大学校の自由専攻学部で勉強していた。私は中国出身のため、もともと日本の大学で勉強するのが留学だが、さらにアジア三大国の韓国に観にいくたかったゆえにこの交換留学プログラムを選んだのである。ソウル大学でたくさんのことを経験し、素晴らしい思いを残った。この留学報告書では、私が留学によって体験したことや、留学先での生活を発表する。留学を考えているあなたに少しでも助けになることができれば幸いだと思う。写真を撮るのが好きなので、写真で報告書を面白くかけたらよかった。



（ソウル大正門）

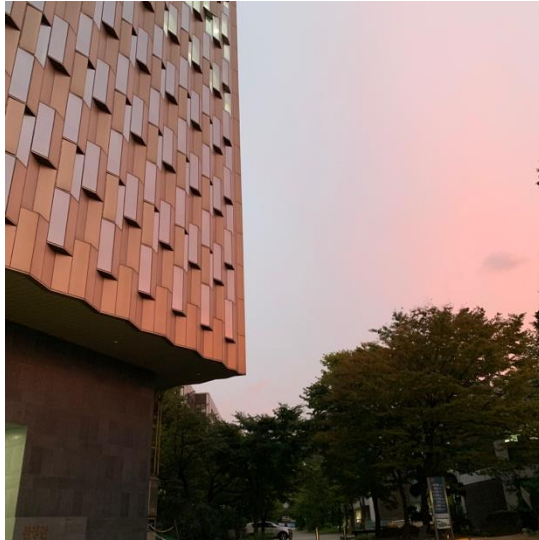


（景福宮でのお写真）

日常生活

学校が始まったところの9月には留学生歓迎会、SNU BUDDY 説明会などのさまざまな新入生向けの活動が行われた。SNU BUDDY と留学生会で出会った先輩たちと学校の指導先生たちから、生活上注意を払うべきさまざまなところとキャンパス内の基礎施設の使い方を熱心に紹介してくださった。校内の『生協』には文房具のみならず、日用品も結構揃っているため、韓国に留学し始めた最初のところでも明らかな不便はなかった。

東大の学生といえば、勉強しかできない stereotype がすぐ人々の頭に來ちゃうが、ソウル大学の学生といえば、賢い、普通にオシャレといった言葉が出てくる。私的に言うと、確かソウル大学の学生の方が勉強が上手でありながら他のことにも注意を払っている。それに、ソウル大学の学生は英語が上手だった。初めて学校の各種施設を利用するときや、授業に行く時などに他人に聞かなければ自分で解決できない場合がよくあった。韓国語できない私にとって、勇気を持って他の人に質問するのが難しかった。相手が私の英語をわからないならどうしよう、相手は英語で質問に答えられないならどうしよう、と心配したが、そのような必要はなかった。ソウル大学の学生さんたちは、英語力は結構高く、留学生とわかった瞬間に熱心に助けてもらえる。それは何よりも安心させるものだと思う。顔がいいし、格好もいいし、成績もいい人に、誰でも惚れるでしょ（笑）。



(図書館外側)

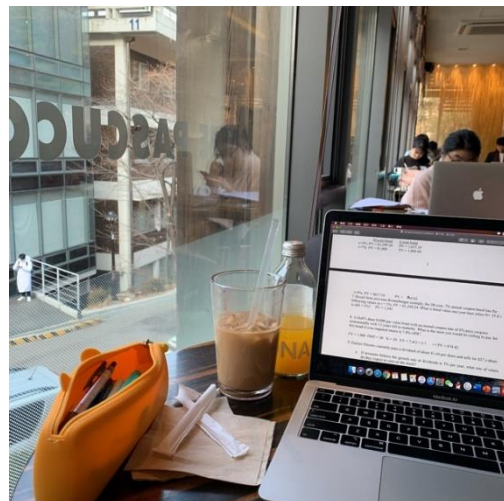


(カフェ)

ソウル大での日常生活を言えば、私は普段朝起きて、寮の下にあるカフェでサンドイッチを朝ごはんとして食べて、授業がない場合は図書館またはカフェで勉強する。ソウル大学は勉強するための最適な場所だと思う。ソウル大にはたくさんのカフェがあり、すごく静かで、十分な基礎施設と多様な座席が揃えている。図書館では、電子機器の使用できるエリアと一般的な読書エリアが別々であり、水飲み器も層ごとに設置されている。空気の質が良く、不適切な室温で眠ることもなかなかない。最も重要なのは、雰囲気が非常に良く、図書館でゲームをする人や携帯をいじる人がほとんどなく、勉強にかなり集中しているのである。



(朝ごはんの例)



(カフェでのお勉強)

交換留学と言えば旅行ですという人はたくさんいらっしゃると思うが、私は旅行より学校生活を楽しむのが好きだ。ソウル大学は冠岳山で建てられており、寮から最寄りの地下鉄駅まではバスで15分ぐらいかかる。長時間の旅行もそんなに興味も持たない私には、やはり学校周辺で満足する。東大は渋谷の隣にあり、授業が終わってからすぐ遊びに行こうと思っちゃうので、課題や復習はよく Deadline 直近で終わらせていた。ソウル大学で私は自分の勉強に対する態度を改めた。講義は英語で行われるので、知らない単語をあらかじめ辞書で引かなければならないため、事前復習することになった。教授は単に講義資料を読むのではなく、補充解釈をたくさんするので講義時間は2時間以上だとしても授業により集中できた。授業後もわからないところを早めにわかるようにしておき、常に復習と授業関連の資料を読むことになった。このような新たな勉強習慣を身につけたのが韓国留学での最大な収穫だと思う。



(ソウルの街並み)



(ホンデの空)

もちろん、私は勉強しかできない人でもない。ホンデやカンナムなどにショッピングしにいったりはしていた。普段自習と授業以外に私はよく運動していた。課題を終わった

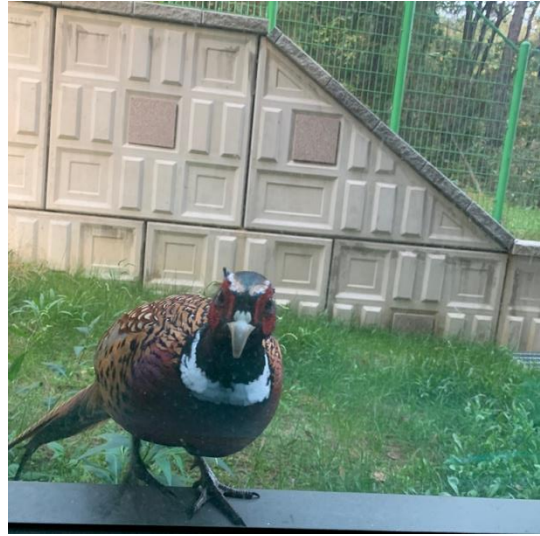
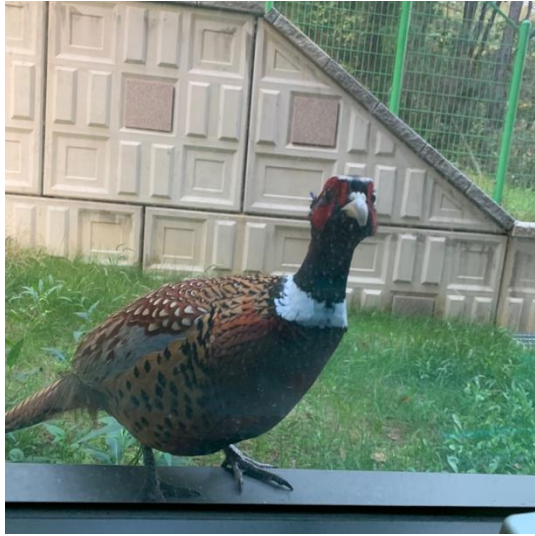
夜、900 棟の下にある合宿舎ジムに通うことが多かった。毎週 2 回ぐらいは校内の練習室でダンスを練習するようにもしていた。このような運動のおかげで病気のかからないように留学生活を送ったのである。



(みんなと一緒に Everland へ)

基礎施設

私が泊まっていたのはソウル大学が新たに建てた国際寮の 4 人部屋だった。国際寮は 2 階ごとにセミナールームとキッチンが設置されていて、寮で料理するのも勉強するのもすごく便利だった。国際寮は男女別で、訪客制限ルールもしっかり実行されていて、安全で住みやすかった。私の住んでいた寮には韓国人二人がいて、中国人二人だった。この部屋では私だけ韓国語話せないけれども、みんなは私のためにカカオグループで韓国語ではなく英語で話し合っていた。お土産や韓国生活情報を色々頂いて、家を離れている感じは全然なかった。



(自然環境の良すぎるソウル大——寮の窓外の鳥(?)さん)

国際寮には全部エレベーターがつけてあり、寮の下にもコンビニ、カフェとジムが揃えてあり、想像以上便利だった。バス駅も寮の近くにあり、通学や市内に行くのも楽だった。寮には主に交換留学生が住んでいるので、あったことのある人がたくさんいた。話したことがなかったが、親しい友達のように手伝ってくれることが多く、家族のような生活環境だった。

ソウル大学は学校面積が大きいので、食堂を多く設置しなければならない。韓国の食事は日本料理より中国料理に似ているので私にとっては美味しかった。食堂が多いけれども食事の種類と値段がそれぞれで、校外に行かなくても韓国料理の美味しさを実感できる。私がよく行くのが 919 棟にある宿舎食堂と学生会館にある食堂だった。919 棟食堂は寮に近く、授業に行くなら必ず通すところだ。私はよく昼ご飯を 919 棟食堂で食べてから授業や勉強しに行っていた。東大とは異なり、食事の種類はあまりにも多すぎて、食堂に飽きたという発言は学生の中になかなかなかった。食堂のイモさんたちも親切で、繰り返すことになるが、まるで家のような食生活だった。



(900 食堂)



(919 食堂)

日本で毎週運動するようにしていたので韓国に行っても運動すると私は韓国に行く前にこのように決心した。韓国語がわからず、ジムに通うのが絶対面倒いと思ったが、楽だった。ソウル大学はさすが国際的な大学であって、寮に近いジムだけが3つ揃っていて、ジムの宣伝は英語バージョンがあり、ジムのスタッフさんも英語で楽に対応できた。このように、毎日学生会館の近くに勉強してから 900 棟に運動して寮に戻るのが私の日常になった。学校外に行く必要もなく、施設が新しいとともに料金も高くなかった。まさに夢の校舎だった。

私は東大のダンスサークルに属しているので、駒場祭にも参加することになった。そのため練習しなければいけなかった。日本でスタジオを借りるのになれた私にとって、ダンスできる場所を探そうと思っていた。しかし私は韓国語あまりできず、遠いところまで練習するのも嫌だし、焦っていた。SNU BUDDY とルームメイトに聞いたら、ソウル大学には練習室までであるとわかった。ネットで予約したら誰でも利用できるとルームメイトに教えられ、やっとダンスを練習できる場所を発見した。

それらに限らず、このソウル大学はまるで小さな町のように、美容室、プリント室、音楽ホール、やコインカラオケなど一見大学でありえない店も揃っている。このような基礎施設が完備され、学生たちが学校を出ることなしに生活できるという目標を実現して

いる。言い換えると、よりよく自分自身の勉強と研究に集中できるのではないだろうか。



(初雪)



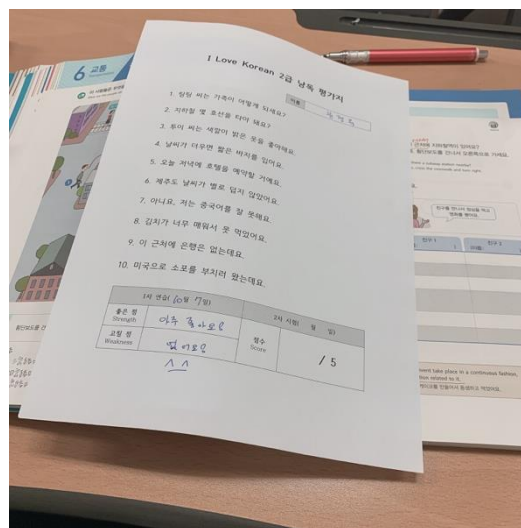
(ソウル大で育てられた猫ちゃん)

授業

韓国での3か月半の間、私は Citizenship and virtues、Astronomy Lab、Financial Management、Global Communication、Human Factors and Engineering Psychology とソウル大語学堂での韓国語授業といった6つの講義を受講していた。



(Astronomy Lab 校外観測成果)



(語学堂話す練習)

自由専攻学部は東大の教養学部と似ているため、語学堂を除いて、他のコースは全て英語で教えられているので、専攻に関係なく好きな科目を自由に選択できる。講義する教

授によって講義スタイルが違ってくるため、さまざまな学習雰囲気を体験できた。

ソウル大は、学部生全員には必ず英語で教えられる講義を受講することを要求している。そのため、私たち留学生がよく受講する講義では、留学生のみならず、韓国人学生もたくさんいらっしまった。授業は、片方の教授ではなく、双方の思想交流だったと言える。何故ならば、教員も学生も積極的に教授という過程に参加するからである。英語で教えられている講義だから雰囲気当然違うと私の論点を反する人もいると思うが、私が行った通りに、この講義を受講する人は主に韓国人なので、韓国語で教えられている講義で積極的に参加していないと、どうやって急に授業態度を変えたのか。ソウル大学は北京大学や東京大学などよりより西洋的な授業方法を実施しているのではないかと考えていて、私たちもより積極的な、双方向的な授業方法を講義に入れたらどうだろうか。

講義内容に関しては、全て教員に自ら作られていることが東大に似て、教員ごとの特徴が最大に発揮されている。しかしソウル大学の学生の方が、積極的で、授業の価値を生かせると思う。私が知っている限りでは、スライドをひたすら読む教員がいなく、何年生向けの講義にかかわらず学習の雰囲気が良かった。課題が重いと思う人がいるかもしれないが、課題があった方が、フィードバックができ、知識を身につけることができると思う。

教授は講義第1回目にメールや Office hour など質問できる方法を学生たちにお知らせし、何回も強調することがあった。私は教授がいかにかこれを重視したのに驚いた。受講者は授業後の短な時間にだけでなく、教授が許可されている時間にいつでも質問することができる。しかも教授はこれが時間の無駄扱いと思うことなく、それに反して学生たちに質問する重要性を何回も強調していた。それに、TA、および教授がメールに返信するのも結構早く、質問は簡単に解決できる。

私が受講していた講義の中に、最も印象に残るのが global communication という講義であった。国際交流はゼミの形で行われ、オーストラリア、アメリカ、モンゴル、ドイツなど多国籍の学生が受講していた。講義の形として、北京の清華大学と連合し、講座と課題研究で構成されている。多様な考えかたと異文化と出会い、知識を増えるとともに、違った分野に触れることもたくさんできた。知識を学ぶよりは、このゼミナールクラスでは小さな国連のように、各国の学生が平等に学術を交流しあうことができ、home university で経験できない国際交流をできた。

大学における講義以外に、私はソウル大学語学堂で行われた韓国語授業を取っていた。語学堂は私が最初に日本に来たときに通っていた日本語学校と似ていて、主に韓国語や韓国文化を中心に授業をしている。交換留学生にとって韓国語を学ぶのは強制的ではないが、韓国語を少しでも学んだ方がよりよく交換生活を楽しんでいけると思うので、留学しようとしている皆さんにオススメだ。

おわりに

韓国に行く前に交換留学の間に旅行や観光をたくさんしようと思ったが、ソウル大の課題は想像以上重く、しっかり勉強しななければいけなかったのではほとんど旅行していなかった。しかし私は残念だとは思わない。この短な三月半の間に、私はたくさん学んだ。様々な国籍の人と接し、違った背景で育てられた友達と色々交流し、違った世界観と価値観を体験しながら、多くの知識を学ぶこともできた。

新しい文化に触れることで新世界までの道が開いてくる。日本に来る前に、私はこのことを知らなかった。夢を抱いて日本に来たのになぜかこの異国に溶け入れない。この質

問の答えを探すために韓国に行った。今回の留学で韓国人だけでなく、欧米、南米、アメリカなど色々な人と触れ合うことができた。社交に苦手な私でさえ友達たくさんできて、異国生活に対する拒否感がなくなった。この世界は必ず一つになっていく。そのため、差別視をなくさなければならないのである。韓国では自分が外国人であるから差別視されていると心配する必要なく、ただ自分になりきっていればよかった。そして、自分の勉強、人生や未来に届く道も明らかになり、知識よりも、私自身の成長の方が今回の留学のやりがいの証拠だと、考えている。

このような機会を与えてくださった EALAI さんとキャンパス・アジアプログラム、誠にありがとうございました。日本と韓国事務室の方々にも色々お世話されて、無事に留学生活を送った。私は今回の経験を生かして、国際的な人材になるためにこれからより頑張っていきたいと思う。